

心の健康問題の正しい理解のための主体別の普及・啓発方策の具体例

検討会構成員名	高橋 清久	実施主体	精神保健福祉ボランティア (ハートピア)
普及啓発活動名	精神保健福祉ボランティア講座	活動時期	年1回 これまで6回実施
<p>小平市社会福祉協議会で行った精神保健福祉ボランティア講座、毎年1回計4回を終えた後、受講者の有志で団体を組織し、精神保健福祉ボランティア団体（ハートピア）を7年前に結成した。社会福祉協議会のボランティア担当職員の援助を受け、ハートピアとして自主的にボランティア講座を企画した。開催の目的として、①会員を増やし組織の活性化を図る。②市民への精神保健福祉の普及啓発をはかる。この講座の企画準備には、ハートピアからの準備委員と地域生活支援センターあさやけ（以下あさやけ）からも出席した。回数や内容、講師、宣伝方法等を話し合い、あさやけは事務局を担当することにした。受講者の申込み、資料の作成、見学先の調整等を担当した。</p> <p>定員は40名で新聞、テレビ等のマスコミを始め地域の市広報、タウン誌等にできるだけ広く呼びかけた。受講者は予想を上回る60名を超えた。受講希望者の中には、精神障害当事者も数名おり、精神障害を持つ家族も応募された。また、精神病に対する相談も応募とは別に多く寄せられ「近所に時々大きな声を出す人がいる、どう対応すればいいのか」「心の病気についての相談出来る場所はどこにあるのか」等があった。受講された方からも「始めて勉強することで、少しずつ精神病について理解できてきた。」「糖尿病と同じで、薬をきちんと飲んで、規則正しい生活をしていれば安定していることがわかった。」等があった。病院や作業所等の施設見学を行い実際に精神障害者に接してもらったことで、「どこが病気がわからない、とても明るく優しく話しかけてくれた」等思っていた印象とは違ったとの声も多く聞かれた。</p> <p>受講終了後ハートピアに入会しボランティアとして施設の食事作りや通所者の送迎、施設入居者との話し相手、精神病院での畑作業等の活動に参加している。ハートピアの会員も日常的に顔をだしてくれたりして日常的に交流を深めている。3年間ボランティア講座を行って来て、以前より本当に心の病について市民が感心を持つ人が確実に増えてきたことを実感している。まだ、実施回数が少ないのですが、身近で精神保健福祉を学べる場所があることは非常に有効であり、啓発活動としての効果も高いと感じる。</p> <p>ハートピアの活動として、ホームページの開設やニュースの発行を行い積極的に情報提供を行ってきた。また、一昨年からは、会員有志による引きこもりの家族の集まりを持ち情報交流や懇談会を毎年実施している。</p> <p style="text-align: right;">文責：精神保健福祉ボランティア</p>			

(注意) 複数の具体例がある場合は活動ごとに記載下さい。2枚以上になっても結構です。参考資料がありましたら、併せて情報提供ください。

項目	内 容
対象者	クラブハウスはばたきに通所している精神障害者の方 (以下、「メンバー」とする)
スタッフ	クラブハウスはばたきスタッフ 過渡的雇用事業所の職員
会場	過渡的雇用事業所
開催日時	利用者の方の状況に応じて設定
内 容	<p>取組のねらい クラブハウスに通所しているメンバーのうち、就労を希望するメンバーのための一般就労への橋渡しを目指している。</p>
	<p>開始に至る経過 平成12年に企画した支援コンサートに参加してくれた事業所の方の協力を得て、平成14年7月に過渡的雇用の準備を始めた。事業所の職員に精神疾患や障害特性についての説明を行い、クラブハウスはばたきのスタッフが実際に仕事を体験し、仕事の内容についてのマニュアルを作成した。その後、スタッフと一緒にメンバーが仕事に入り、平成14年12月から過渡的雇用を開始。更に平成15年6月からもう一事業所を開拓し、現在4名が就労中である。(平成15年12月現在)</p>
	<p>プログラム 事業所内の清掃、ホテル客室の清掃・シーツ交換等の仕事 (複数交代によるパートタイム)</p> <p>過渡的雇用の条件 (原則) ※世界クラブハウス連盟によるクラブハウスモデルの基準 (はばたき訳) より引用 ○雇用の機会を決定する唯一の最も重要なものは、本人の働きたいという意思である。 ○前の職場での成功・失敗とは関係なく、雇用の機会はいつでも保証される。 ○メンバーは、事業主の事業所の職場で働くものとする。 ○メンバーは、最低賃金以上で、一般事業所並みの賃金を事業主の手から、直接受け取る。 ○過渡的雇用の場合は、広範な多種多様な職種の中から準備される。 ○過渡的雇用はパートタイムであり、雇用期間に限られる。通常、労働時間は15～20時間、雇用期間は6～9ヶ月とする。 ○過渡的雇用におけるメンバーの選択と訓練は、事業主ではなく、クラブハウスの責任において行う。 ○クラブハウスのスタッフとメンバーは、過渡的雇用の結果について、メンバーの社会的保障を扱うすべての専門機関に報告する。 ○過渡的雇用は、過渡的雇用の専門家によって行われるのではなく、スタッフとメンバーによって運営される。 ○過渡的雇用は、クラブハウス内で行わない。過渡的雇用がクラブハウスの母体組織で行われるときはクラブハウス以外で行われ、上記の要件をすべて満たす。</p>
<p>メンバーの反応 ○働くことで自信がつき、次の新たな目標が持てた。</p> <p>受け入れる事業所の方の声 ○日々、慣れて輝いて行く姿を見ると感動する。 ○はばたきスタッフが介在することで、安心できるシステムである。</p>	
施設の紹介	<p>【クラブハウスはばたき】 精神障害者の共同作業所の一つ。クラブハウスとは、精神障害者のための地域リハビリテーションモデルであり、世界クラブハウス連盟の基準に沿って運営されている。メンバーとスタッフはパートナーシップの関係にあり、メンバーはクラブハウスの運営に必要な仕事を通して自信を回復したり、今まで気づかなかった自分の能力を発見することができ、意義のある人生を送ることができるという考えのもと活動を行っている。</p>
問い合わせ先	<p>所 属 クラブハウスはばたき 連絡先 住所 小平市小川町1-407-11 TEL 042-343-0676 FAX 兼用 E-mail habataki@f5.dion.ne.jp</p>

(別紙様式)

心の健康問題の正しい理解のための主体別の普及・啓発方策の具体例

検討会構成員名	高橋 清久	実施主体	食事サービスセンターなごみ
普及啓発活動名	立川第7中学校生徒 福祉ボランティア体験	活動時期 (期間)	H13.12, H14.12, H15.11
<p>平成13年9月、立川第7中学校より、2年生生徒に福祉ボランティア体験を行いたい旨の相談が入りました。2学年生徒を3多摩の福祉施設へ分散し、1日体験実習を行いたいとのことでした。</p> <p>当所へは6名(男子3、女子3)の希望者があり、①精神障害者の理解 ②ボランティア活動を通じて地域の中で、共に生活する役割を理解する ③様々な人との出会いから自らの生き方を考える。等を目標に、平成13年12月16日に、1日実習を引き受けました。</p> <p>具体的活動は調理下準備、弁当容器洗浄、弁当詰合わせ、配達の仕事メンバーと共に行っていただきました。親子ほどの年の差がありましたが、中学生の機敏な動きに驚かされたり、メンバーが自分の仕事を教えていくことに自身を持ったような場面が見られ、こだわりのない交流ができました。休憩時間のティータイムでは自己紹介から始まり、仕事の話、学科の話、趣味等を語り合い、メンバーの方々は若いエネルギーを吸収したように思えました。</p> <p>翌14年12月は2日間、平成15年11月は3日間の実習となり、よりよい効果をあげています。病気の初発近い、若い年齢から障害者との接点を持ち、病気や障害に対する理解を深めるために有効と思われます。今後も協力していきたいと思っています。</p> <p style="text-align: right;">文責：食事サービスセンターなごみスタッフ</p>			

(注意) 複数の具体例がある場合は活動ごとに記載下さい。2枚以上になっても結構です。
参考資料がありましたら、併せて情報提供ください。

お礼状

(なごみ福祉会食サビサービスなごみ) 林様

このおにだの、9月8,9,11日は、いそがしい中、私たちのために、ありがとうございました。障害者の人や老人の人のために、いろいろな工夫をしている事々々の3日間の体験で、わかって、とっても勉強になりました。あと、精神障害者の人を社会に出すための社会頼り帰の施設という事、はじめて知りました。そして、酒造りに行った時、老人の人たちお茶を飲み、笑っていて、よろこんでくれて、とってもうれしかったです。3日間ありがとうございました、とっても勉強になって、とってもいい経験になりました。本当に、ありがとうございました。

2年 5組 / 番 氏名

お礼状

食事サービスセンター なごみ、
小、平、美、国、町、1-4-1

本 様

先日はお礼状が貴重な体験をさせていただきありがとうございました。宮本さんはお弁当箱の洗浄からお弁当の配達の際の注意事項まで教えてくれました。宮本さんはお弁当の配達中「お弁当がびしょ濡れになってくれている」と言っていました。それと今の言葉が僕が勉強を頑張るキモチになります。

この体験を通して感じたことはお弁当を運ぶことで大切なお信頼できる人がいるという事と、僕らも年々のため何かお礼をする人がいることだと思います。

今回もお弁当配達という事しか考えていませんでした。もし次回また食事サービスセンターにいらした際は、お弁当のメニューまでお見せ願ひしたいと思ひます。

もしまた僕たちがお邪魔。してもしければ、また次回もよろしくおねがいします。

2年 5組 13番 氏名

項目	内 容
対象者	一般市民 精神保健福祉等関係者
スタッフ	小平精神保健福祉業務連絡会 (精神障害者社会復帰施設、精神科医療機関、社会福祉協議会、精神障害者家族会、精神保健福祉ボランティアの会、東京障害者職業センター多摩支所、救護施設、小平市、多摩総合精神保健福祉センター、保健所等)
会 場	小平市内の会場
開催日時	年1回 11月の土曜日午後
費 用	なし
	<p>取組のねらい 精神保健福祉について一般市民にアピールし、理解を深めてもらう機会とする。</p> <p>開始に至る経過 昭和44年に地域の精神保健福祉の関係機関の連携を深めるために、小平市近隣の関係者が定期的に集まり、地域の課題の検討や情報交換を重ねてきた。 その中で、昭和54年より、地域の精神保健福祉の課題を関係者だけではなく、一般市民にアピールし、理解を深めてもらう機会として「精神保健福祉を考えるつどい」を年1回、継続して開催してきた。</p> <p>プログラム テーマに応じた講演会・シンポジウム・てい談等 (参考)平成15年11月22日(土)に開催した内容 ○テーマ こころの病 みんながいきいきと暮らす街をめざして ○講演 「米国ファウンテンハウスに学ぶ雇用支援」 ラルフ・ビルビー氏(国際クラブハウス開発センター) ○てい談 「はたらくこと ささえること」 利用者の立場から 就労受け入れ事業所の立場から</p> <p>工夫している点 ○小平市精神保健福祉業務連絡会関係者の熱意と努力によって、毎年開催している。 ○精神保健福祉業務に携わっている関係者や当事者の体験談を大切にしている。</p> <p>対象者の反応 この活動を通して、地域の関係者をはじめ地域住民との結びつきを強める役割を果たしてきた。</p> <p>この活動をとおして、今後地域で広がってほしいと考えていること 地域住民に精神保健福祉に関する理解をより深め、精神障害者を支える社会資源が広がってほしい。そして、みんながいきいきと暮らせる街を目指したい。</p>
利用の仕方	<p>問い合わせ窓口 小平市精神保健福祉業務連絡会事務局 「救護施設 あかつき」担当者に電話</p>
問い合わせ先	<p>所 属 救護施設 あかつき</p> <p>連絡先 住所 小平市小川町1-485 受付時間 9時から17時まで</p> <p>Tel. 042-341-4711 FAX 042-341-4707</p>

(別紙様式)

心の健康問題の正しい理解のための主体別の普及・啓発方策の具体例

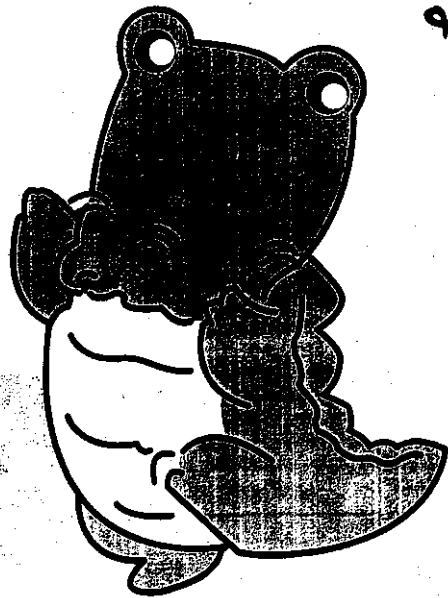
検討会構成員名	高橋 清久	実施主体	食事サービスセンターなごみ
普及啓発活動名	夏の体験ボランティア	活動時期	H7 H8 H13の7、8月, H15.8月
<p>毎年7、8月にかけて、全国的に行われている各地域社会福祉協議会の「夏体験ボランティア」という企画があります。15歳以上の青年男女が対象で、1日～3日位のボランティア体験を進めています。多くは高校生、大学生が夏休みを利用して参加下さっていますが、ここ2、3年は企業に勤めている方が、夏休みを使って参加して下さるようになっていきます。</p> <p>事前説明会では、保育園が人気があり大半は希望されます。精神の作業所は人気がなく、3年ほど希望者なしという年が続きました。夏には作業所のある町内でサマーフェスティバルが2日間行われますが、これにも日程が合えば参加いただいております。作業所に来られた時は調理、配達等を中心に、最近では企業にお勤めの方にパソコンを教えていただくこともありました。几帳面に働くメンバーに感心していかれた方もあります。メンバーにふれあっていただき、不安を解消していただくことが一番と思われます。</p> <p style="text-align: right;">文責：食事サービスセンターなごみスタッフ</p>			

(注意) 複数の具体例がある場合は活動ごとに記載下さい。2枚以上になっても結構です。参考資料がありましたら、併せて情報提供ください。

'99夏!

体験ボランティア参加者募集

しゅとしちやいらねえい!!



東京ボランティア・市民活動センター

夏!体験ボランティア係

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10F

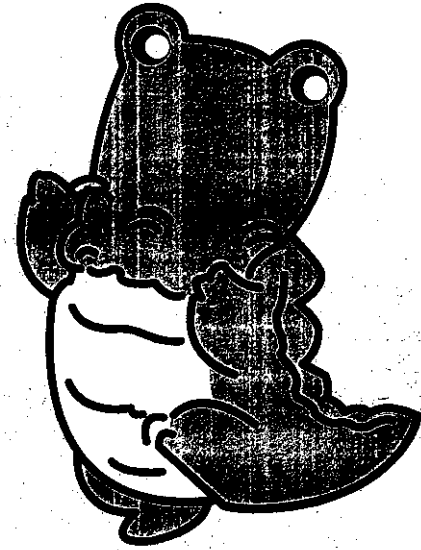
TEL. 03-3235-5730 (テープによる案内)

FAXサービス (受領書のついたFAXからおかけ下さい。(6/10~8/31))

FAX. 03-3272-6599 (BOX番号07000)

'99夏!

体験ボランティア 参加者募集



- 活動内容: 高齢者・障害者・児童関係、保健医療、国際関係、環境保護のボランティア活動。
(例): 老人ホームなど施設での活動、地域ボランティアグループでの活動、障害児・者との交流活動、保育園での活動、病院での活動、国際協力団体での活動等。
- 応募資格: 都内に在住・在勤または在学の方。
- 応募方法: 参加を希望する方は、専用ダイヤルをご利用の上、資料を請求して下さい。
- 活動期間: 1999年7~8月を中心とする数日程度の活動 (活動によっては、その後の続行も可能)
- 募集定員: 6,000名
- 主催: 東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター
- 共催: 港区社会福祉協議会/新宿区社会福祉協議会/文京区社会福祉協議会/台東区社会福祉協議会/墨田区社会福祉協議会/品川区社会福祉協議会/大田区社会福祉協議会/世田谷区社会福祉協議会/渋谷区社会福祉協議会/豊島区社会福祉協議会/北区社会福祉協議会/葛飾区社会福祉協議会/江戸川区社会福祉協議会/武蔵野市民社会福祉協議会/三鷹市社会福祉協議会/青柳市社会福祉協議会/調布市社会福祉協議会/小平市社会福祉協議会/東村山市社会福祉協議会/保谷市社会福祉協議会/福生市社会福祉協議会/狛江市社会福祉協議会/東大和市社会福祉協議会/東久留米市社会福祉協議会/武蔵村山市社会福祉協議会/稲城市社会福祉協議会/羽村市社会福祉協議会/あきる野市社会福祉協議会/瑞穂町社会福祉協議会/日の出町社会福祉協議会/檜原村社会福祉協議会/奥多摩町社会福祉協議会/三宅島社会福祉協議会/世田谷ボランティア協会/東京YMCA/東京YWCA/日本赤十字社東京都支部/社会福祉活動教育研究所/日本青年奉仕協会/東京善童銀行
- 後援: 東京都/都内区市町村社会福祉協議会/東京都ボランティア活動推進協議会/東京都青少年協会/NGO活動推進センター
- 協賛: NEC/明治生命保険相互会社/プレジデンシャル生命保険株式会社/株式会社NTTデータ/株式会社資生堂/味の素株式会社/伊藤忠商事株式会社/三菱地所株式会社/株式会社TOMOE

お申込み・お問い合わせ

夏!体験ボランティア専用ダイヤル (8/31まで)

TEL. 03-3235-5730 (テープによる案内)

FAXサービス (受領書のついたFAXからおかけ下さい。(6/10~8/31))

FAX. 03-3272-6599 (BOX番号07000)

(その他各種ボランティア案内: BOX番号07070)

東京ボランティア・市民活動センター 夏!体験ボランティア係

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10F

TEL. 03-3235-1171